

全佛通信

発行所 財団法人全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木(本願寺内)
電話(54)〇三三三
編集者 栗本俊雄
印刷所 栄昌堂

二・三月号

主張

信火燃ゆる

釈尊讃仰運動を展開しよう

愈々釈尊二五〇〇年を記念する祝典行事が展開される事になった。

この行事が開かれるに至る迄の政府当局側の裏面の動きに関してはその実体を知るものにとつては仲々複雑なものがあつたようだが吾々は敢てその問題に触れようとは思わない。とも角仏教系議員を中心とする一連の人々の熱意がこの成果を結び「釈尊を讃える会」として力強く発足したことにむしろ

る感謝と敬意を卒直に表するものである。

要はこの機会にこの企画を如何に仏教者が活用し、自由な立場で我らの釈尊を讃える運動を全国的に展開するかにあるのだ。

とかく世間の一部には何ごとにつけても冷い眼で之を批判して冷笑する傾向があるが仏教者の大多数のものはこの機会を素直に喜んで現在の現状から見て敢えて理論づけなくとも又生硬な憲法論に煩

されることなく、東洋文化殊に日本文化の母である「釈尊」の御徳を偲び且讃える純粋な気持ちに何の遠慮があるうか。
全日本仏教会が之を提唱し全国都道府県仏教会、全国各宗門と緊密な連繫のもとに展開する記念祝典はいさゝかも政府の予算を使用するものでなく、何れも全国仏教徒の尊い献金によつて執行されるものである事を思えば徒らなる批難に屈する事なく堂々と本運動を展開すべきであらう。

すでに各地方大会を行う地元にては夫々官民合同の委員会を設けて着々と準備をすすめているが之は極めて限られた、むしろ恵まれた地区であつて、問題はこれらを除いた他の全国地区における運動の展開如何にかまつてゐるのだ。

時あたかも釈尊降誕の佳き季節にあたるし明るい仏教運動をモットーに右顧左弁することなく又徒らに言あげることなく、全国の仏教徒は僧俗の別をのり越えて徹底的に身兼説法の態度で恵まれた好機会を充分に活用してもらいたいものだ。

釋尊2500年祝典

東京大会 3月27日→31日
地方大会 4月1日→8日



2500TH
MARCH-APRIL 1959

主催 全日本仏教会
協賛

記念ポスター その一

花まつりも結構、記念伝道も結構、夫々の地区の特色に応じて全日仏の教化計画、資料、ポスター等を充分に活用して全国各所に祝典行事を展開してもらいたい。徒らなパレード等のお祭り騒ぎをすゝめるのではない、農山漁村の一寺院一教会においても、又家庭において「人間釈尊」の偉大なる徳を偲び且讃え、今こそ人間釈尊の生きた教えが祖国復興に、世界平和の建設に如何に重要であるかを先づ身を以て示し、次いで手近かなる近隣から遠くに之を伝え、一人から一人の胸にこの偉大なる釈尊を讃える信火燃ゆるところ、必つや明るい平和な社会の実現が期せられ、そのまゝ仏国土建設に通づるものあることを確信するものである。

「釈尊を讃えるうた」

「いかなる日にも」完成す
全日本仏教会ではかねてより釈尊二千五百年を讃える記念行事の一つとして全国仏教徒に歌えるような易しくて深い味をもつた歌曲の作製を意図していたが愈々各種の機関を経て作詞長田恒雄氏、作曲伊藤完夫氏により右の聖歌が完成したので去る廿三日東京銀座の河合楽器東京支店でその試聴会を行い全仏関係者仏教主義学校音楽主任の先生方の批判を乞うて作曲も決定し愈々全国的に之を普及宣伝すべく事務局に於て目下準備に大忙である。

いかなる日にも

ーゴータマ・ブツダ領ー

長田恒雄 作詞
伊藤完夫 作曲

かがやく智慧と やさしさと
しずかな勇氣の みちびきに
いかなる日にも いかなる夜にも
われらのささえと なりたもう
ああゴータマ・ブツダしたわしき

正しいことば あきらかに
天地のことわり さし示し
いかなる日にも いかなる夜にも
われらのちからと なりたもう
ああゴータマ・ブツダしたわしき

× × ×

けわしささる ひとの世に
つきせぬひかりを かけつづ
いかなる日にも いかなる夜にも
われらのいのちと なりたもう
ああゴータマ・ブツダしたわしき

「釈尊二千五百年記念」

中央行事日程

第一日三月二十七日(金) 一、〇〇〇、一一、三〇

◎開会式 日比谷公会堂

◎共同研究會 学士会館

◎研究課題 仏教の平和概念とその実現方

二、現代世界思想風潮内における

三、仏教の重要性

◎ガリデンプーパティ

◎六、代表を含め約二〇〇名招待

◎外代表を含め約二〇〇名招待

◎共同研究會(委員会)

◎九、〇〇〇、一一、三〇

◎二、委員会 学士会館

◎一、委員会 学士会館

◎講演會 前記の通り

◎日比谷公会堂

◎日本代表

◎外国著名思想家

◎外相主催観劇會 (交渉中)

◎三、三月二十九日(日) 一九、〇〇

◎歓迎式典 一、三〇、一六、三〇

◎東京体育館

◎一部 開会式

◎入場券

◎聖歌「涅槃」演奏 黛敏郎作曲

◎首相祝辞

◎首長「釈尊を讃えることば」

◎外代表メッセーデ

◎本部一流歌手による民謡

◎三、閉会式

◎四、三月三十日(月) 一、〇〇、〇〇

◎共同研究會

◎公開講演會(或は中止になる

◎日本又はアジア代表、外国著

◎名思想家二名

◎観能會、八〇〇、一九、三〇

◎水道橋能樂堂

◎晩餐會 羽衣その他

◎予定 外国代表を含め約七〇〇名招待

◎五日三月三十一日(火)

◎共同研究會(総会) 学士会館

◎閉会式 一、〇〇〇、一一、三〇

地方行事

全国主要都市に準備進む

京都大会

四月一日

一、主催 全日本仏教会、同花祭奉賛会
同 関西事務局

二、会場 式典及び歓迎大会 午後二時より西本願寺
田丸総長を準備委員長として各宗



この写真はバキスタン、ガンダーラの石仏で説法印の釈尊像として芸術の香りが高いものであります。

各団体代表委員で準備中であるが大体左の通りに進行中である。

先づ京都ステーションホテルで朝食後、バスで比叡山延暦寺はじめ各山参拝見学の後京都へ入りホテルで中食を終えて定刻西本願寺で式典を行う。

之は西本願寺法主殿下を中心に金山僧侶随喜、更に各宗本山管長及び代表者参列して莊厳なる本格的式典を行う。終了後歓迎大会に切かえ、全日仏代表はじめ日本側各代表の歓迎の辞に続いて参列各国代表の謝辞及びメッセージ等々がとり交わされたる後、幼稚園児代表、仏婦、仏青等代表の献花、献灯、代表者への花束贈呈等が行われる筈

京都大会日程

四月一日 一三、三〇 ホテル市内パレード プラスバンドを先頭に各自動車を連ねて会場へ
一四、〇〇 西本願寺着
一四、二〇 釈尊二千五百年慶讃法要引続き歓迎大会

京都大会 プログラム

一五、一〇〜一七、〇〇

◎仏教徒のうた「あゝこの喜び」斉唱 京都各大学聖歌合唱隊

一、開会の辞 関西事務局

二、花束贈呈 各国代表全員へ 仏婦、仏青、幼稚園児

三、全日仏会長挨拶

四、本願寺派門主挨拶

五、祝 辞

総理、職える会々長 石橋湛山 京都府知事、市長、各国大使

六、メッセージ

七、外国代表挨拶(外国代表二名)

八、記念品贈呈

◎釈尊を讃える歌斉唱

九、閉会の辞 理事長

大阪大会

大阪の準備は、府、市、当局商工会議所をはじめ、各界の協力を

得て着々と進められている。

四月三日、奈良よりバスで大阪の代表を宿舎「新大阪ホテル」前へ出迎え、財界代表等と懇談会を開いて同夜一泊、翌四日午前中は市内観光と産業施設の視察が行われた後、午後は中央公会堂で「釈尊二千五百年を讃える会大阪大会」が盛大に開かれる。夕刻には府、市、商工会議所の共催で招待晩餐会と懇談会が開かれる予定である。なお屋敷後、市内パレードを行うことなども考えられており大阪大会の清興としては、石井漢

有効の舞踊、宝塚歌劇の「貞明皇后」等の案が出されており、近日中に決定をみることになっている。なお、この大会と前後して府下全域で行われる花まつり行事とあいまつて、仏教興隆の気運が大きく昂まることが期待されている。産業施設の見学視察については別途企画中

愛知県大会

愛知県では、「釈尊二五〇〇年記念名古屋式典委員会」を組織して準備が進められている。この委員会は、県、市、会議所、財界等の幅広い支援を得ているもので、この記念式典を通じて、国際的仏教交流と同県仏教教化運動の昂揚に資すべく鋭意努力している。具体的な式典及び記念行事としては、外国代表の到着(四月五日午前十一時)を中心に左の通りの日程が組まれており、その成功が各方面の期待のマトになつてい

福岡県大会

釈尊二千五百年を讃える会福岡大会は、土居県知事、奥村福岡市長、県、市仏会長、をはじめ各界代表による歓迎委員会が準備が進められており、その成功が全県下仏教徒の期待を受けている。

すなわち四月五日は、午前八時五十八分博多着の外国代表を五百名余の大家で駅頭に出迎え、県警のプラスバンド吹奏の裡に花束贈呈、直ちに宿舎日活ホテルへ。同十時ホテル発にて、九州大学医学部、文学部等を見学の後、正午ホテルにて市長主催の歓迎レセプション。十三時よりの釈尊降誕花まつり子供大会(西本願寺会館)に参加する。大会では梅田市仏会長の歓迎挨拶、花束贈呈、来賓代表挨拶等があつた後、聖歌隊による大合唱が行われて終了する。一四時四〇分大会場を出発し、バスにて西公園、大濠公園をはじめ市内観光の後一六時宿舎へ帰る。以後代表の自由行動にまかす一泊。翌六日は一〇時二〇分発の特急かめにて博多発、広島大会へ向う。

は丸栄ホテルで歓迎パーティーが行われ、親善交歓が行われる。これと前後して四月二日から七日にかけて、丸栄八階の大ホールで奉讃仏教展が開かれて、広く仏教に対する関心をよびおこすことが期待されている。また七日午後一時からは、好評をえている石井漢バレー団の「人間釈迦」が愛知県文化会館で公演され、多角的な記念行事に一層の色彩を加えることになつている。

ボスター五千枚は既に県下全体に配布されてP・Rに役立っているが、更にこの行事を記念して、寺院教会に対する仏旗備付運動も展開されることになつている。

広島県大会

広島では、去る一月十三日に祝尊二千年五百年を讃える会打合せを開き大要の如く決定し、着々準備を進めている。

すなわち祝尊二千年五百年を讃える会広島大会実行委員会(市当局が中心となり、仏教会をはじめ地元各界が参加)を結成して、全市民の積極的な協力が約束されている。具体的な行事日程は次の通り。

四月六日

- 一四・五七 代表広島駅着 一行を中心に歓迎パレード
- 一六・〇〇 慰霊碑参拝の後、新ヒロシマホテル投宿。新聞記者会見。
- 一八・三〇 前夜祭(広島市公会堂にて一般市民参加)

歓迎花束贈呈、挨拶、音楽、舞踊、映画等が行われる。

四月七日

- 九・〇〇 外国代表は広島平和記念資料館等を視察。
- 一〇・〇〇 広島大会を公会堂に開く。国家斉唱、音楽「涅槃」祝歌を讃える詞、祝辞、メッセージ、特別講演会等
- 一一・〇〇 新ヒロシマホテルにて歓迎レセプション
- 一四・〇〇 平和記念公園にて讃仏祭と合同慰霊法要(広島市及び近郊連合会招待、外国代表、仏教会員奉仕、稚児行列、その他一般市民参加)
- 一六・三〇 外国代表一行ホテル発(宮島一泊)

四月八日

- 九・〇〇 宮島遊覧
- 一〇・〇〇 宮島発海路宇品へ
- 一一・〇〇 宇品着 東洋工業へ向い屋敷後、視察。
- 一三・一四 広島発(臨時)急行「安芸」にて東京へ

石川県大会

石川県では、県、市当局の後援を受け、更に地元各界の絶大な協力を得て、歓迎準備と前後の諸行事の具体化が進んでいる。

即ち、県下仏教会支部、各寺院に連絡して、奉祝行事、花まつり講演会等を期間中に開催すべく準備を進めており、また全県下で一斉に鐘をつくことも準備されている。また県下、市内の商店街に記念大売り出し実施を交渉しており、NHK、MROに呼びかけ、祝尊に関する講演放送や諸行事の宣伝等について依頼している。こうした全県的な気運の盛り上げの中で、具体的な行事としては次の如く予定されている。

四月五日 加賀市、小松市、七尾市等で花まつり行事、講演会等を開催し、また金沢市では白象市内行進等にきやかな行事を行う。

四月六日 金沢市東別院で奉祝生花大会とお茶の会(八日まで)を開き、また境内では記念のど自慢大会(MROテレビ放送)などを開く。

四月七日 外国代表一行到着と共に花束をさしあげて市内パレードを行い。別院で小憩後に市内関係施設見学、観光。五時より別院境内で前夜祭(キャンパ・フアイヤー、合唱運動)が一千余名の大家を集めて行われる。引続いてこの大家は市内を提灯行列で行進する。また八時から講演と音楽の夕を開き、外国代表の講演を予定している。代表一泊。

四月八日 朝十時より灌仏会法要を別院で行い。午後は二時から商工会議所で歓迎パーティーを開く。

静岡県大会

静岡県の祝尊二五〇〇年祝典に対する動きは、新たに「祝尊二五〇〇年を讃える会、国際親善使節歓迎、静岡県大会」を組織して仏教を通じて友好親善、貿易振興の實を挙げようとする鋭意努力中である。県大会準備委員長としては、県仏会会長木本孝氏があり、顧問に推した石橋湛山氏の後援に依つて、県大会会長を齊藤寿天氏、副会長古郡久作氏、山田順策氏、岩崎豊氏、鈴木平一郎氏、増井慶太郎氏、大野木代次郎氏、鈴木与平氏の内諾を得た。二月廿六日午後十時より県庁貴賓次室において県大会一回の会長会議を行うことになっている。大会準備委員会において企画案として用意している王なる行事を挙げると次の如くである。

四月六日 浜松市に国際親善使節を迎え、直ちに鴨江寺にて平和祈願祭を行う。産業視察として楽器工場、本田技研工場を案内した後、歓迎レセプションを開き、同夜は浜松へ一泊。

四月七日 静岡市に到着、パレードにて、県庁訪問。(清水市に同時に代表団の一部を迎えるか否か未定)官民合同の歓迎午宴会を行い、午後一時、静岡市公会堂において行い県大会に参む。同大会のアトラクションとして催す榊原仏教舞踊団のアジア民族舞踊のうち日本舞踊とインド舞踊を鑑賞。清水市に向つて産業視察と観を光行い、清水市官民合同の歓迎レセプションに参む。同日急行阿蘇号にて神奈川県招致にかゝる箱根の歓迎会にのぞむ。

県大会附帯行事として全仏の協賛を得て、各地における祝尊二五〇〇年をたゞえる会記念特別講演その他の集会を行う。現在確定中のものは、

三月廿五日 静岡市における、久保田正文氏講演会

四月五日 興津町における、齊藤栄三郎氏講演会

四月七日 静岡市における印度仏蹟寺院及び印度舞踊関係の映画会(インド大使館に交渉の予定)

榊原帰逸氏を囲んで東洋舞踊音楽を鑑賞する集会を行う。

静岡市においては全市を挙げての静岡まつりが四月一日より五日迄行われているので、四月七日の県大会行事についての積極的な弘報をこの期間中に各種の方法をもつて行うことになっている。

神奈川県大会

神奈川県大会は地元県仏教会を中心に官民合同の「神奈川祝尊奉讃会」を結成し、発起人会を二月六日午後横浜ホテル、ニューグランドで開いた。

この日、孤峰總持寺貫主、半井横商會頭、磯野ラジオ関東社長、佐々木神奈川新聞社長ら関係者三十余人が集り、会則、予算「国際親善大会」の行事予定などを審議した。同奉讃会は仏教を通じて県民の思想生活を豊かにし諸外国との友好親善をはかり世界平和への貢献を目的とするもの。

初行事としての「国際親善大会」は来る四月七日祝尊二五〇〇年祝典計画の一環として県下仏教関係者五千人の他東南アジアを中心とする世界各国からの代表者数十名も参加する。行事予定大体系の通り。

オ一部(四月七日・八日)

四月七日夕方五時熱海駅に外国代表一行を出迎。同夜箱根宮の下富士屋ホテルで歓迎会。

八日朝九時同ホテル出発、小田原平塚、茅ヶ崎、藤沢、鎌倉を経て県庁へ。各市長、知事が歓迎挨拶を行う。

オ二部

八日正午鶴見總持寺に県下仏教者

(僧侶、信徒)約四〇〇〇人が集り左の順序で県大会を開く

①開会挨拶 総裁孤峯貫主

②記念講演 小野清一郎博士

③法話 總持寺後堂老師

④挨拶 県仏会会長福永隆賢氏

奉讃花まつり大会(一四時)

つるみ学園、明倫学園約四、〇〇〇人が参加聖歌合唱の内に盛大に行う。

その後内外の来賓数百名を招待して会食を行い一八時散会会の予定

山形県大会

山形県では大会実行委員会が組織されて準備が進んでいる。この委員会は会長に安孫子知事、副会長に大久保山形市長と平沢山形市仏会会長があり、地元各界の全面的な協力が約束されている。この行事と並行して、仏誕花まつり行事が県下全域で盛大に行われるが、この行事を一つの機縁として正式に県仏教会を結成しようとの機運が盛り上がりつつある。

なほ、具体的な行事日程は以下の如くである。

四月七日

四・四〇 上山着 村尾旅館にて休憩

一〇・〇〇 同旅館発山形市へこの日は主として歓迎パーティー及び土産館その他産業施設、史跡等の視察に充て

一七・〇〇 までは旅館に帰着なお歓迎パーティーは山形市における大規模のものゝほか、できるなら上山にても朝のお茶の会も行いことが考慮されている。

四月八日

一二・〇〇 午餐会

一三・〇〇 仏誕花まつり祝典

一四・〇〇 祝祭と清遊

一七・〇〇 観送パーティー

一九・〇〇 講演会

二一・三〇 右終了

二二・三五 山形駅発 帰京

二大準備會議

両会議出席者極めて多数でこの世紀の大行事に対する各方面の熱意のほどもうかわわれ、会議又活潑にして鋭い質疑応答も行われ終日「釈尊デー」の感が強かつた。

府県仏教会長
一〇時—十三時

定刻より三〇分ほど遅れて佐瀬総務局長の開会のことばによつて始まり、西本願寺田丸総長を座長に推して全員の承認を得た。

重永全日仏理事長挨拶を行う。

その中で二、五〇〇〇年記念事業計画全般に付ての説明と当局（稗摩）を詳ねる会。側との連絡接渉の模様を詳細説明した。次に別紙の通り二、五〇〇〇年記念事業予算案の提案をし、別所総務部長が朗読並

全国宗務総長会同 午後二時より

定款先づ総務局長の開会の挨拶に於て始る。曹洞宗西沢総長席長に推されて満場一致で承認議長に就く。次いで重永理事長立つて本会議の目的及び積尊二五〇〇年記念行事の概要説明を行ひ之に對する全国宗門の格別協力を乞うと前提し、やがて全日仏の新年度における事業概要等に付て説明、全日仏の發展充實のため一層の支持と協力を要請した。

かくて本部提出の議事に入るに先立ち総務局長の紹介で大谷よし雄參議院議員の挨拶が行われた。

に概要説明を行つた。質疑に入り、東大寺執事長、京都仏教会代表、愛知県仏代表等から二、三質問あり。之に対して理事長、局部長より夫々詳細な応答を行い、一同充分本部の意を諒として原案通り可決承認した。

次いで愛知県仏代表の名古屋大会の準備情況報告を筆頭に、福岡、大阪大会等の報告が行われ午後一時屋敷を共にして散会した。

氏は主として左の三点に關して中央政界の实情を加味して詳細具體的な説明を行つて有力な參考資料を提供した。

① 釈尊二五〇〇年を讀える会成立に至るまでの經過と予算三〇〇〇万円獲得の实情に就て

② 墓地問題のその後の情況に就て

③ 解放農地補償を繞る最近の政府と党の動きに就て

かくて何れにしても釈尊二五〇〇年を讀えるこの佳き機会に遭遇して単なる中央及び特殊地方の行事に止ることなく全国的に仏教興

調運動をもち上げて欲しい旨を諭
調本部
①昭和卅四年度事業要綱並びに予
算大綱に關する件
②秋五〇〇年祝典開催に關す
る件
③その他
長右各項に就ては夫々太田事務
長佐瀬栗本、石川各局長より
説明可決承認されたわけも原案
通りである本年の新年度予算大綱に
關する異議なく承認されたこと
何等の異議なく承認されたこと
見かて終つた後夫々方々の行
談笑裡に散会した。

(常任実行委員会)

上田宥澄（高野山）竹村教智（智
山派）川嶋貞子（仏通）伊原一
（大派）星谷慶縁（石川山派）渡
辺惠進（延暦寺）久保智道（天台
宗）岡崎博愛（福岡山派）能登芳
隆、村瀬良彦（愛知山派）田丸久
隆、寺山堅正、京原賢厲（本派本
願寺）山家惠誠（京都山派）秦豊
玉（永平寺代表）狹川明俊（奈良
山派）橘村英祐（華嚴宗）佐藤賢
雄（兵庫山派）小泉文翁（滋賀山
派）塚原徳広（四天王寺）間野敏
重（大阪山派）千々和宝天（関西
事務局長）

◆全国宗務総長会同

磯貝豐隆(西山派) 津田宗雄(高野山) 草津宣浩(大覺寺) 永倉敬昭(修驗宗) 柳生昌景(妙見寺) 仲井義照(木沢派) 田丸道忍、中戸堅正、桑原賢曆(本派本願寺) 久保智道(天台宗) 深貝郁文(南禪寺派) 横井鶴村(天龍寺派) 武田香菴(大谷派) 西沢浩仙(曹洞宗) 竹村教智(智山派) 古永日和田(顯本) 大原最後(仁和寺) 和田教漢(西山派) 橘村英祐(華嚴宗) 森田桂誠(融通會) 塚原德虎(四天王寺) 高木真光(禪林寺派) 山田日領(本門仏立) 木村智彦(新義) 奥博仁(仏光寺派) 小林大藏(浄土) 千代和宝天(永理事長、太田事務總長、各局部長等々。

二月六日午後一時半より三時半まで東京銀座の三笠会館で開かれ出席者四〇名定刻事務局側より開会を宣し常光浩然委員を座長に推挙し満場一致で之を承認し議事に入り左の通りの協議決定並びに報

緑織局部長より各地の大会準備情況の報告が行われ更に神奈川、大阪等については夫々出席代表者より報告があつた。

委員長 (重永 潜)	事務総長 (太田 淳昭)	局長 (石川 存静)	局長 (柳 了堅)	局長 (栗本 俊道)
総務局長 (藤 淳光)	次長 (別所 弘因)	資金局長 (同 右)	次長 (同 右)	国際局長 (同 右)
会議、文書、印書、記念品等	募金、經理、出納等	渉外、輸送、宿泊、通訳	京都、地方大会、	

f. 記念切手の発行について
 祝尊二千五百年アジア文化会
 議記念切手が三月廿七日全国一
 斉に発売される。地方では直ぐ
 売切れると思われ、地方太
 会開地等の必要数は中央事務
 局で実費であつたことに
 つたので申合せられたこと
 常任委員の推薦について
 倉俣嘉氏の後任として口田日
 氏を推薦満場一致で承認され

（次長高橋忠雄）
 記念事業局
 局長太田淳昭
 弘報等
 記念事業

込愛付中
 について
 二五〇〇年祝典ポスター、花まつりポスター各一万枚、二月末まで完成予定、成人向パンフレット、リーフレット、幼児向絵本等各二、三万部作成中、二月中に完成予定、出来次第發送する。御利用を乞う
 ◇ 釈尊を讃える歌の制定普及について
 長田恒雄氏作詞 藤完夫氏作曲で目下準備中、二月中に試験會をやつて全国的普及にのり出す筈。
 d. 地方大会行事の計画と実施情況について

この佳き時に
全仏制定の仏旗、あゝこ
の喜びのうたのレコード
及び「けさ」「仏旗」の
御利用を乞う。

レコード 単価 二〇〇円
(送料別)

□け さ 単価 五〇〇円
(送料別)

□仏 旗(大) 単価 一八〇〇円
(送料別)

(中) 〆 三五〇円
(送料別)

(小) 〆 九五円
(送料別)

全日本仏教会